

「PTA講演会、学年PTA総会」(令和3年7月14日(水))

宮城県・柴田町立船岡中学校 校長

先 週9日(金)に、PTA講演会と学年PTA総会を行いました。講演会では、仙台市在住アーティストの伊東洋平さんをお迎えし、講演とミニコンサートを行いました。講師をお願いしたのが2年前で、昨年度はコロナ禍で行えず、2年越しの実現となりました。体育館には、3年生と保護者が入り、1、2年生はリモートで教室での視聴となりましたが、伊東さんの熱いメッセージを一人一人がしっかり受け止めていました。

また、この日は朝から雨で、足もとがとても悪いところでしたが、多くの保護者の皆様により学年PTA総会にも参加いただきました。誠にありがとうございました。

清掃強化期間

今週13日(火)から3日間、清掃強化期間となっています。いつもの清掃時間を10分間延長し、床磨き、窓ふきなどを入念に行っています。

昭和44(1969)年に落成した現在の校舎は、同63(1988)年に床張り換えとアルミサッシ取り付け工事を終え、それから30年以上も使用します。これからも、先輩方に負けないくらいに心を込めて、学校を磨き続けてほしいと願っています。

◆◆◆◆【読書案内】◆◆◆◆

星亮一「斗南(となみ)藩―「朝敵」会津藩士たちの苦難と再起」(2018年、新書231ページ)

斗南藩とは、戊辰戦争(1868年)後、「朝敵」の汚名をこうむった会津藩の人々が、現在の青森県の下北半島を中心とする旧南部藩の地に流罪として移住し、作り上げた藩の名前である、と本書の冒頭で解説されています。私は、現在の会津若松市の鶴ヶ城や飯盛山に行ったことはありますが、戊辰戦争前後の会津藩の歴史を、意識して読んだことはこれまでありませんでした。

本書を読んでわかったことが5つあります。①幕末から明治初期の国づくりの流れ。②奥羽越列藩同盟が薩長主導の新政府軍に敗れた経緯。③斗南藩の土地は稗(ひえ)を主とする雑穀しかとれず、生活は想像を絶する過酷なものであったこと。④斗南の会津人からは、のちの東大総長山川健次郎、イギリス大使林権助、陸軍大臣畑俊六など多彩な人材が輩出したこと。⑤斗南に残り、地域の産業や教育を支えた多くの会津人がいたこと。

明治4(1871年)、戊辰戦争時の会津藩主・松平容保(かたもり)が斗南を訪れます。本書ではその場面を「容保が来たというので、下北のあちこちから藩士たちが駆けつけ、なかには境内に座り、手を合わせてひれ伏す者もいた。(略)容保は訪れるすべての人に、手を差し伸べ、言葉をかけた。人々は流れる涙をふこうともせず、じっと地べたに座りつづけた。皆、衣服は粗末で、子どもたちは裸足であった。」と記述しています。

この本は、明治維新という栄光の陰で朝敵の汚名を着せられ、屈辱の日々を強いられ、歯を食いしばって生き抜いた多くの会津人の魂の叫びである、と著者は述べています。



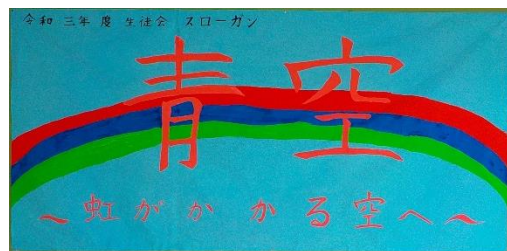
PTA講演会。伊東洋平さんの講演とミニコンサート。



タブレットを活用し、「絶滅危惧種」をテーマに、調べ学習をしている場面です。



小グループで、英語の音読練習をしています。



令和3年度生徒会スローガン「青空～虹がかかる空へ～」(生徒昇降口、体育館)